

会報

第18号

平成27年1月

あけだまり

一般社団法人
山形県老人クラブ連合会
〒990-0021 山形市小白川町2-9-31 県総合社会福祉センター2階
tel (023)622-5601 fax (023)622-5606
ホームページ <http://www.kirara-yamagata.or.jp>
E-mail yrouren@poplar.ocn.ne.jp

新年のごあいさつ



一般社団法人山形県老人クラブ連合会
会長 柿崎 繁雄

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様には、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年は介護保険制度がはじまってから第6期目に入り、「地域包括ケアシステムの構築」を進める中で、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように、介護・医療・生活支援・介護予防を充実させ、市町村が地域の実情に応じた取り組みができるような地域支援事業に移行され、あわせて高齢者の社会参加と結び付けて計画されていることから、地域に根づいて活動を展開している老人クラブ組織が果たす役割と期待は大きく、現在取り組んでいます会員加入2万人増強運動を着実に実行し達成していかなければなりません。

また、戦後70周年を迎えることから、戦時体験の記憶を語り伝える世代として恒久平和を祈り子々孫々に継承していく使命があります。

このように、豊富な知識と経験を有する高齢者で構成する老人クラブは、「おたがいさま」の精神で、福祉の受け手と担い手の立場に立った仲間づくりを広げ、地域を創生するためには、本会役員が一丸となり、会員の皆様をはじめ市町村老連の協力を得ながら、行政当局や地域におけるあらゆる関係機関団体とも連携し努力してまいります。

終わりに、本年も皆々様にとりまして明るく、幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



山形県知事 吉村 美栄子

新年あけましておめでとうございます。

老人クラブの会員の皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

わが国は、世界に類をみない短い期間で人口の高齢化が進行しており、本県においても高齢化率は29.1%と全国平均の25.1%を大きく上回り、今後とも上昇することが予想されております。

今後の高齢化を見据え、本県では高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、高齢者の社会参加を一つの核にして「地域包括ケアシステム」の構築を推進しております。

その中で、高齢者の地域における積極的な社会参加に繋がる、老人クラブの皆さまの魅力ある活動に対し敬意を表しますとともに、地域で暮らし続ける高齢者の支え手としてもお力を発揮していただきたいと期待申し上げているところです。

県といたしましても、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間、いわゆる健康寿命の延伸を図るため、老人クラブをはじめとする関係機関の皆さまと協力しながら取り組みを進めてまいります。

本年が皆さまにとりまして幸多き年でありますよう心から祈念申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

平成26年度 市町村老人クラブ連合会会長並びに女性委員会合同研修会

11月6・7日、山形市のヒルズサンピア山形を会場に、「平成26年度市町村老人クラブ連合会会長並びに女性委員会合同研修会が開催されました。

1日目は、県健康長寿推進課担当山口健康長寿企画主査より、「地域包括ケアシステムの時代～老人クラブに期待すること」として行政説明がありました。

平成27年度の介護保険法改定により、健康づくりなどの介護予防活動、ボランティア活動などの社会参加の他に、地域の高齢者生活支援として「声掛け・安否確認」や「ゴミだし・買い物手伝い」など友愛活動へ期待が高まっていることについて解説いただきました。

また、基調説明においては、県老連高橋常務理事が「老人クラブの現状と課題への対応」と題し今年度から実施している「老人クラブ2万人増強運動」の取り組みを中心とし、各市町村老連にも目標数値を設定し県老連・市町村老連が連携して目標を達成していただくことを強調しました。

事例報告では、会員増強運動に取り組みについて南陽市老連歌丸会長より、地域に老人クラブが無い方や老人クラブ活動へ参加したい未加入者に対し「準会員制度」を設けることで会員増強へ繋がった経緯や、先般東京で開催された全老連主催「女性セミナー」の参加報告を交え、老人クラブ会員の6割は女性会員であることから、「女性パワーを発揮し仲間づくりをすすめましょう」と提案いただきました。

2日目は、「老人クラブ2万人増強運動の達成に向けて」をテーマにグループ討議が行われ、内容は、①老人クラブ活性化の取り組み ②会員加入の方法 ③老人クラブができることの3つの課題に対し、「足りないこと」と「できること(解決方法)」に分けて、それぞれの市町村が持つ悩みや問題点、解決策など熱心な意見交換となりました。



グループ討議 報告書

～テーマ「2万人増強運動の達成に向けて」～

| グループ | 足りないこと | できること(解決方法) |
|------|--|---|
| 1 | リーダーになる人がいない 70歳代～80歳代の加入が減った 行政のサロン事業と日程が重なる 老人クラブという名称が問題 | 次期リーダーを育てる 楽しめる仲間づくり 名称を「きららクラブ」とか変更する |
| 2 | サロン事業が先行している まだ仕事をしているので若手が加入してくれない 若手と後期高齢者との考え方が違う 若手を中心に行事に参加しない、行事に参加しても会員にならない 老人クラブという名称にこだわる人が多い 市街地域での加入者が少ない | 若手委員会や女性委員の活用をする しく会など遊び心を大切に活動の輪を広げていく 運動会などの実施 (体育大会・ワナゲ大会・グラウンドゴルフ大会等) 地域との関りを大切にして、老人クラブのイメージアップを図る(世代間交流など) |
| 4 | 各市町村ごとに行政からの予算措置にバラつきがある 難しい提出書類により会長のなり手がいない 高齢化により行政に提出する書類の作成処理が難しい 地域との絆を持つと多く持って活躍の場が足りない 老人の経験をもっと活かせる場が必要 若手会員をもっと活用する場が明確でない 介護予防の対策として各機関と協調し進める必要がある 会をつくって魂入れずではなく、将来のクラブを考えた施策を | 老人クラブに抵抗があるので、「健康クラブ」等に名称を変えたらどうか クラブの広報活動が足りないのではないかと 行政の窓口と実情を訴えて予算化に向けた働きかけ もっと広報に力を入れる必要がある。 女性の今後の活動のため各クラブで計画すべき 介護予防の研修会に多くの人の参加の理解を求める 地域に溶け込んで元気老人は見守り役になる 語り部、昔し遊び、子育て相談等、経験と知識とどんどん出して事業をやるべき |
| 5 | 役員のなり手がいない(事務処理等) 活動のPRが足りない 趣味のサークル活動に参加している人が多い 人間関係の希薄さ等の問題 一人暮らしの人に声をかけると拒否される場合がある | 地域で活動が見えるようにする 世代間交流も必要(子供たちとふれあう) 一人暮らしの人に誰でも声をかける 認知症、アルコール依存症等の悩みを持つ相手に対して理解をする 高齢者を尊敬しあう心を大切にする |
| 6 | 行政とのタイアップ 代表者がいない 会長は後継者を決めてから辞めてほしい 書類の書き方、会計の仕方が難しい 老人クラブというネーミングが気にかかる まだ早い、老人ではないと言われる | 65歳になったら全員加入するという行政の取り決めがあるとよい 行政との連携が成功しているところもある 行政は高齢者ができる範囲の事務処理を考えてほしい 役職もやりすぎると後継ぎができない、ほどほどに もっと斬新的な名称にしたい(シニアゴールドクラブ等) |
| 7 | 会費について問題があるのではないかと サロン活動の位置づけが各市町村によって異なっている | 多くの方へとにかく加入の呼びかけ 行政の助成金があるので入ってほしいと呼び掛け 市報に老クの活動を載せてもらっている 老人クラブは地域づくりに協力していることをアピール |

大石田町老連と高畠町老連の若手員会交流会



昨年、大石田町老連は若手委員会を発足し、活動のお手本として活発な若手委員会と情報交換をしたいという要望から、高畠町老連若手委員会との交流研修会を高畠町老人福祉センターで行いました。

高畠町老連では、「昭和青年クラブ」と称し、地区を超えて活動をする若手委員会を発足、若手会員自らが企画した事業を展開し、地域で消えてしまった老人クラブの灯の復活をすべく活動を行っていることなど、お互い抱える悩みや戸惑いを打ち明け有意義な情報交換が行われ、「来年度はぜひ大石田町に」という一声から、今年10月9・10日、大石田町あつたまりランド深堀「虹の館」を会場に若手委員交流会が実現されました。

大石田町老連若手委員会は、自分たちの存在価値を高めるためオリジナルピブスを着用しお出迎え、そば打ち体験で町特産の新そばを試食、その後、町内をボランティアガイドの案内により散策し若手委員会の情報交換会が行われました。

高畠町老連からヒントをいただいた大石田町老連では、老人福祉施設での洗濯物たたみのボランティアなどを実施していることなどを報告、これからは地域の高齢者のための社会貢献を老人クラブが担うべきと新しい課題へと一歩前へ進むことを意識しました。

夕食懇親会では、大石田町長もご挨拶に訪れ町をあげての歓迎ムード、歌ありそば談義あり、また同級生との再会ありと充実した研修会で再び交流し合うことを約束し絆を深めました。



第43回全国老人クラブ大会

活発な活動事例持ち寄り、全国から集う

11月13・14日、大分県別府市において、第43回全国老人クラブ大会が開催され、本県からは5名が参加しました。

1日目の活動交流部会では、「クラブの活性化、会員増強」、「高齢者の“居場所”づくり」、「演じる活動」の3部会が設けられ、熱心に討議されました。

2日目は、「地域づくりと高齢者の役割—今 大切なこと—」と題して、豊の国宇佐市塾代表の平田崇英氏の講演に続き、由布市庄内町ひばり保育園児による「子ども神楽」が披露されました。

また、式典では、全国老人クラブ連合会会長表彰4区分148名、112団体に対し授与されました。本県の受章者は、次のとおりです。



育成指導功勞

松田 清男 (県老連前理事・村山市老連前会長)
佐藤 昌代 (県老連理事・寒河江市老連副会長)

優良老人クラブ

南野第一・第二老人クラブ (庄内町)

優良市町村連合会

南陽市老人クラブ連合会

永年勤続

飯澤成三 (飯豊町)

誠にありがとうございます。今後のご活躍をご祈念申し上げます。来年度は、静岡県で10月28・29日に開催されます。

市町村の動き

11/9 笑って健康元気50年を祝う 大蔵村老人クラブ連合会

11月9日、村中央公民館を会場に会員300人が参加し、村長をはじめ村議会議長らを来賓に招いて記念大会を開催しました。

式典では大会宣言を採択し、引き続き村民生涯健やか講演会として日本でも超一流の人気漫才師おぼん・こぼん師匠が「笑うあなたに福来たる!」と落語家三遊亭好楽師匠が「人生、好んで楽しもう!」の二本立てで花を添え大いに感動を与えてくれました。



11/10 50年の歴史を刻み、飛躍を誓う 新庄市老人クラブ連合会

11月10日、市民プラザを会場に創立50周年記念式典が開催されました。

市長、市議会議長、県老連会長にご臨席いただいた席上で、これまで老人クラブ活動に貢献された20名に50周年記念感謝状が贈られました。

式典終了後には、アトラクションとして会員による歌と踊りと地元歌手の泉 耕(いずみ こう)さんの歌謡ステージが繰り広げられました。



11/18 楽しく健康づくり 南陽市老人クラブ第8回カローリング大会

11月18日、市民体育館において、市内4地区から38チーム、選手114名が参加し第8回カローリング大会が開催され、日ごろの運動不足解消と身体の低減防止、健康維持向上を目的に会員相互の交流となっています。

また、開会式では今年度全老連会長表彰(優良市町村老連)が伝達され、受賞の喜びを会員一同に披露されました。



11/27 50年を機に、組織を再創世 遊佐町老人クラブ連合会

11月27日、町生涯学習センターにおいて会員他関係団体招待者等70人が参加し、記念式典と祝賀会を開催しました。

式典には、町長、町選出の県議会議員、町議会議員、社協会長ほか役員、町教育長、各地区まちづくり協会長も多数出席され、日ごろの信頼と期待を実感いたしました。

また、祝賀会では会員有志の祝唄と祝舞が披露され、厳かの中にも賑やかにこれからの会の発展を共に祝いました。



新春 プレゼント

「万歩計」を20名様に

(株)アーテム東日本事業部から「万歩計」を寄贈いただきました。

健康づくりは足元からといわれますので、今年から毎日の目標歩数を決めてウォーキングしませんか。

会報「陽だまり」をご覧の方20名様にプレゼントします。



応募方法

はがき又はFAXで/ご住所/お名前/年齢/電話番号/所属単位クラブ名/をご記入の上、3月13日(金)まで(当日消印有効)下記あて先にご応募ください。

当選者の発表

当選者の発表は、本会ホームページ並びに商品の発送をもって代えさせていただきます。

あて先

〒990-0021 山形市小白川町2-3-31/FAX (023) 622-5606
一般社団法人山形県老人クラブ連合会「新春プレゼント」係

編集 後記

今年の干支は未(ひつじ)、羊は群れをなして行動することから、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされ、また羊という漢字も、「祥」「翔」「善」「美」「義」など良い意味の漢字が多く人名にもよく使われ人々に親しまれる動物です。

戦後70年を迎える今年、「集団的自衛権」という言葉に右往左往している現代の日本は、世界の国々と群れをなして平和を考えるのか、これまでの平和を維持するのかという平和の姿を考える時代になりました。

命は尊いもの、家族や地域という命の群れを守れる平和の姿であって欲しいものです。(歩)